

【東京都交友会秋の大会】

上野精養軒で新平を語る

11月11日、東京都職員OB会「東京都交友会」からお招きをいただき、「後藤新平の生涯」を上野精養軒でお話する機会をいただきました。今回は、歴史資料に登場する「精養軒」を各種資料と新平日記等を紐解いて紹介します。



【東京都交友会からご招待】

4月早々に、東京都庁職員のOB会組織である「東京都交友会」の及川繁巳事務局長さんからお電話があり、秋の大会での講演のご依頼がありました。会場は、何と「後藤新平文書」にも登場する「上野精養軒」。コロナで開催が危ぶまれていましたが、どうにか流行の間隙をついて実施され、物語の世界であった「上野精養軒」を満喫しました。関係者の皆様に感謝！



【右：佐々木克巳会長】

【左：大関東支夫理事長】

【上野精養軒HPより（一部原文修正）】

明治5年4月、西洋料理の草分けとして、元勲三条実美、岩倉具視卿の支援を受け、東京築地に精養軒ホテルを創業。その後明治9年、上野公園開設に伴う公園内食事処かつ社交の場として最高の展望を誇る現在の地に、支店として「上野精養軒」を開業。大正12年の関東大震災により築地本店が焼失したため、上野精養軒はこの時より本店機能を果たすこととなった。

【ヨッフエとの交渉に「築地精養軒」を利用】

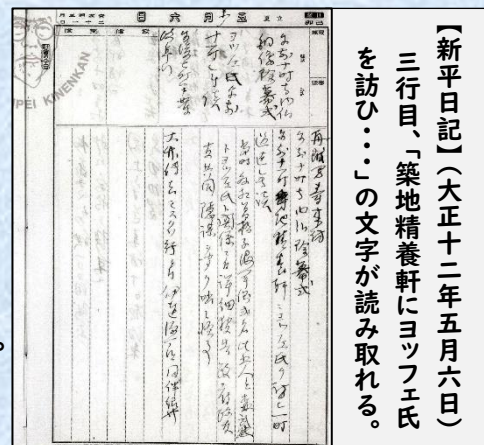
大正12年、ヨッフエが来日した際、度々築地精養軒を利用しています。

大正12年2月1日：ヨッフエ来日、築地精養軒で後藤と長時間会談。

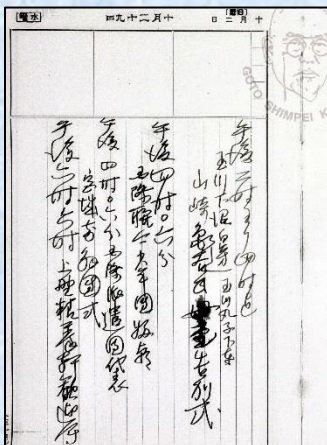
大正12年5月6日：精養軒でのヨッフエとの会談で日ソ交渉基礎案ができる。

同時に懸案の日ソ漁業問題が浮上。

大正12年5月24日：精養軒にヨッフエを訪い長時間会談。



【新平日記】（大正十二年五月六日）
三行目、「築地精養軒にヨッフエ氏を訪ひ……」の文字が読み取れる。



【新平日記】（大正十三年十月二日）
少年団の派遣団員の帰国歓迎会を「上野精養軒」で開催している。

【国際ジャンボリー派遣団慰労に「上野精養軒」を利用】

大正13年8月、デンマーク・コペンハーゲンで開催された第2回国際ジャンボリーに、日本から三島通陽団長以下24名が派遣されました。派遣団の中には、副理事長の尾崎元次郎、京都少年義勇軍を熱心に指導してきた中野忠八、日本児童文学の草分けで、連盟の名誉理事でもあった久留島武彦らの役員と北海道・東京・静岡・大阪を中心とした各国の指導者の顔ぶれが見られます（少年団の歴史：萌文社より）。同年10月2日の日記を見ると、シチズン創業者山崎亀吉の御母堂の告別式に参加し、その後、宮城前での国際連合少年団解団式。そして、上野精養軒での帰国歓迎会が催された様子がわかります。

【後藤新平が実施した上野公園の平和記念博覧会の絵図面に「上野精養軒」を発見】



第7代東京市長時代、第一次大戦終結により、再び世界が平和になったのを記念するとともに戦時中に発展した産業を展示した1,100万人を集めた「平和記念博覧会」が開催されています。パンフレットをめくると、東京市長の後藤新平や協賛会長を務めた渋沢栄一の写真を見ることができます。そして、写真中央に「上野精養軒」の絵と名前を発見！何とも歴史に彩られた建物です。